

ソフトレコーダを利用したリスニング演習について

On the Listening Practice Using “Soft Recorder”

林 弘美

Hiromi Hayashi

明治薬科大学・薬学部

〒204-8588 東京都清瀬市野塩 2-522-1

TEL:0424-95-8702 FAX:0424-95-8702

E-Mail:hhayashi@my-pharm.ac.jp

0. はじめに¹⁾

本稿では、林 (2004)を受け、2004年9月に明治薬科大学 CALL 教室に新たに導入された設備の中で、英語のリスニング演習に用いる“ソフトレコーダ”について、導入前と導入後の学生アンケートの結果を中心に報告する。

1. 林 (2004)の報告

明治薬科大学では、2004年9月の機器更新に際し、CALL 教室の設備の中で LL 関係の機器をなくすことになった。その結果、CALL 教室で行っているリスニング演習の中心である VOD(Video on Demand)システムを利用した演習には影響しないが、補足的にカセットテープを使っていた演習が出来なくなることとなった。そこで、林 (2004)では、従来カセットテープで行っていた演習をコンピュータ上で行う方法をいくつか報告した。特に、Windows コンピュータに標準装備されているメディアプレーヤーを利用して、音声情報を MP3 ファイルとして保存することにより、CALL 教室の機器がどのように変更されても従来カセットテープで行っていたリスニング演習を行うことが可能であることを確認した。

1) 本稿は、2005年1月27日に行われた“第7回マルチメディアを基礎にした教育発表会”での口頭発表に加筆修正を加えたものである。口頭発表に対しコメントを下された皆様に感謝申し上げます。

ただし、MP3 ファイルと比較して、カセットテープの利点として(1)の点がある。

(1)カセットテープの利点

- a. 速度調節が出来る。
- b. 巻き戻し・早送り(サーチ機能)が容易である。²⁾
- c. 自分のテープを持ってくれば、自宅学習に持ち帰ることが出来る。

上記の3つのうち(1c)の点については、自宅にカセットテープを聞く機器を持っていない学生が増えていること、MP3 ファイルを保存して自宅に持ち帰る方法があること(後述)から、この利点が無くなってそれほど問題ではないと思われる。しかし、(1a、b)については、これらの利点が失われるのは残念である。

この点に関しては、2004年9月に導入される新システムに“ソフトレコーダ”というものがあり、林 (2004)の時点ではその詳細は不明であったが、その操作性がカセットテープを超えるものであると良い、と思われた。

2. 予備調査

2004年度前期(5月)に CALL 教室で授業を行っている「CALL 英語 A」という科目の受講者

2) 学生によっては、カセットテープよりも MP3 ファイルのほうが操作しやすいという感想を持つことがわかった。2節参照。

(A、B の2クラス)に対して(2)のようなアンケート(記述式)を行った。

(2) 質問: カセットテープとMP3 ファイルのどちらを使用した演習がよいですか?

その結果は、(3)のとおりである。

(3) a. A 組:

MP3 のほうがよい 25人(53%)

テープのほうがよい 7人(15%)

どちらでもよい 15人(32%)

b. B 組:

MP3 のほうがよい 34人(67%)

テープのほうがよい 7人(14%)

どちらでもよい 10人(20%)

予想以上に、MP3 ファイルを支持する学生が多いことがわかった。

MP3 ファイルを支持する理由としては、(4)のような意見があった。

(4) MP3 ファイルを支持する理由

- a. MP3 ファイルでの聞き取りは、音もクリアで自分のペースで操作しやすいので、私はテープよりもMP3 ファイルでの聞き取りのほうがいいと思います。テープの場合だと、配布や回収のための時間が少しもったいないように思います。
- b. テープよりもパソコン上でやるほうが時間の節約になってよかった。操作もパソコンのほうがやりやすい。
- c. 聞きやすかった。音質もよかった。
- d. 家でテープが聞けなかったのでMP3のほうが便利だと思います。

(4a、c)のように、音質面でカセットテープよりもMP3 ファイルのほうが優れていると感じた学生が多かった。(4a、b)は、操作面でもMP3のほうが優れていると述べている。また、カセットテープに関しては、貸し出し用のものを用意し、授業ごとに配布・回収を行っていたが、(4a、b)はその時間が

もったいないと指摘している。さらに、(4d)のように、自宅にカセットテープを聞く機器がないために、持ち帰りが楽、というカセットテープの利点をそもそも持たない学生もいた。

一方、少数ではあるが、カセットテープのほうがよいとした学生の意見は(5)である。

(5) カセットテープを支持する理由

a. テープのほうが巻き戻しがしやすく速度も変えられるのでテープのほうがよかったです。

b. テープは、スピード調節が出来るから、自分の好きな速さで出来ていいと思う。

やはり、カセットテープでは速度調節ができるという点を評価している。

「どちらでもよい」とした学生は、(6)のように述べている。

(6) 「どちらでもよい」の理由

- a. MP3 は便利だけど、巻き戻しをしたり一時停止をしたりするのが面倒。
- b. MP3 を利用すると、テープを配る手間が省けてよいと思います。ですが、一度学校にパソコンを持ってこないダウンロードできないのが大変なので、カセットを持ってきて録音する、でも良いなと思いました。³⁾
- c. テープのほうがダビングに時間がかかって面倒くさいけど、テープは速度を変えられるのでその点ではテープのほうが良いが、MP3 の速度でも聞き取れないことはないのでMP3 でも良い。

全体としては、操作性については、MP3 ファイルのほうが良いとする学生とカセットテープが良いとする学生の両方がいたわけだが、MP3 ファイルのほうが(予め準備しておくため)教材配布に時間を要さない、また、音質が良いという利点が

³⁾ 実際には、MP3 ファイルを自主学習用に持ち帰る方法はいろいろある。注4参照。

あり、一方、カセットテープは速度調節ができるという利点が指摘されたことになる。

3. ソフトレコーダの特徴

2004年9月にCALL教室に新システムが導入され、従来のカセットテープに代わるものとしてコンピュータ上で“ソフトレコーダ”が利用できるようになった。その特徴を(7)に挙げる。

(7) ソフトレコーダの特徴

- a. 音声入力: VTR、カセットテープ、CD 等
- b. 授業内に録音 / あらかじめ準備
- c. 速度調節: 可能
- d. サーチ機能: 容易 < センテンス編集 >
- e. 音質: 良い
- f. 発音練習の提出: 可能
- g. ディクテーション演習の提出: 可能
- h. 持ち帰り: 不可

音声入力((7a))に関しては、教師側が準備するわけであるがカセットテープと同様どんな媒体でも対応できる。録音方法((7b))としては、授業内に録音することも、あらかじめ録音したファイル(CAL ファイルと呼んでいる)を準備することもできる。速度調節((7c))も可能であり、サーチ機能((7d))も容易にできるようになっている。特に、“センテンス編集”という機能があり、(自動的に認識される文(センテンス)の切れ目に加えて)学習者が任意の箇所に“センテンス”の区切りを入れることができ、センテンス単位で進んだり戻ったり、というサーチ機能を使うことができるようになっている。音質((7e))もよい。また、従来のカセットテープにはなかった機能として、学生が発音練習したもやディクテーション(聴き取り)を行った結果を、ファイルとしてコンピュータ上で提出することができる((7e, f))。このように、ソフトレコーダにより作成した音声ファイル(CAL ファイル)は、カセットテープの利点の多くを保持しつつ新たな機能も

併せ持つわけだが、CALL教室のコンピュータにインストールされたソフトを利用しているため、そのファイルをCALL教室の外に持ち出すことはできない。

4. 学生に対するアンケート

ソフトレコーダ導入後、学生が使用法に慣れたと思われる2004年12月に、VODファイル、ソフトレコーダ(CALファイル)、MP3 ファイルの3つを比較するアンケート調査を行った。⁴⁾質問と選択肢等は、(8)である。

(8) 質問: CALL教室で英語の音声ファイルを聞く方法として、次のものについてどう思いますか。該当するところに丸をつけてください。

ファイルの種類:

VOD、ソフトレコーダ、MP3

選択肢:

- a. リスニング力を高めるために役に立つと思う
- b. リスニング力を高めるために役に立つと思わない

⁴⁾ VODファイルとMP3 ファイルの特徴を簡単にまとめると、(i)のようになる。

- (i) a. VOD ファイル: 画像つき、速度調節不可、持ち帰り不可
- b. MP3 ファイル: 音声のみ、速度調節不可、持ち帰り可

MP3 ファイルは、学内 LAN に保存してあるため、それを持ち帰る方法としては、1) USBメモリやCD-R にコピーする、2) ノートパソコンで学内 LAN にアクセスしてダウンロードする、3) MP3 プレーヤーにダウンロードする、ということが考えられる。

また、本稿の元となった口頭発表会後に、植沢芳広先生よりMP3 ファイルの再生速度を変えるフリーソフト(nvplayer(cf. http://www.seera.jp/home/welcome_e.html))の存在をご教示いただいた。

c. 使い方がよくわからなかった

調査対象は、「CALL 英語 B」受講者(回答者数 2年 C 組49人 1年 C 組1人)、および、「総合英語 B」受講者(回答者数 1年B組2班40人)の2グループである。それぞれの結果を(9)、(10)に示す。

(9) 結果1(「CALL 英語 B」受講者)

VOD: a. 46人(92%) b. 4人(8%)

c. 0人(0%)

ソフトレコーダ: a. 46人(92%)

b. 4人(8%) c. 0人(0%)

MP3: a. 32人(64%)

b. 5人(10%) c. 12人(24%)

<未記入1人>

(10) 結果2(「総合英語 B」受講者)

VOD : a. 35人(88%)

b. 4人(10%) c. 0人(0%)

<未記入1人>

ソフトレコーダ: a. 38人(95%)

b. 0人(0%) c. 3人(8%)

<重複記入1人>

MP3: a. 32人(80%)

b. 4人(10%) c. 3人(8%)

いずれのグループでも VOD およびソフトレコーダを利用した場合にリスニング力を高めることに役立つと回答していることがわかる。「CALL 英語 B」の受講者の中に「MP3 ファイルの使い方がよくわからなかった」と回答した学生が多かったのは、授業中には基本的に MP3 ファイルは使用せず、自主学习を行いたい学生に対して口頭で MP3 ファイルの利用法を説明しただけであったため、興味を持たなかった学生もいたことによると思われる。

この調査では、同時に(11)のような自由記述アンケートも行った。

(11) 質問: CALL 教室でのリスニング演習

について、何か気づいたことがあればお書きください。

その回答例を(12)に挙げる。^{5) 6)}

(12) a. 速度を速めたり遅くしたりできる CAL (=ソフトレコーダ)が使いやすかった。 <総>

b. CAL ファイルの録音機能がやってみて面白かったです。 <CA>

c. 速度を遅くすると声が割れて聞きとりにくい。CAL ファイルは使い方が面倒。 <CA>

d. (VOD ファイルについて)音だけじゃなく画像があると、何をやってるかわかるからいいと思った。 <総>

e. (MP3 ファイルについて)保存して持って帰るのに便利だった。(あってよかった。) <CA>

f. VOD ファイルの音量と CAL ファイルの音量の差が大きかった。 <複数の学生から> <CA>

⁵⁾ 回答例の末尾の<総>は「総合英語B」受講者の回答であることを、<CA>は「CALL英語B」受講者の回答であることを示す。

⁶⁾ 同時に(i)の質問にも回答してもらった。結果は、(ii)である。

(i) 質問: 次の音声再生機器・データのうち、自分で使用できるものに丸をつけてください。

(ii)-1 「CALL 英語 B」受講者(計50人)

カセットテープ: 34人(68%)

MD: 42人(84%)

CD: 47人(94%)

MP3 プレーヤー: 15人(30%)

その他: 2人(4%)

(メモリスティック、SONY ウォークマン)

(ii)-2 「総合英語 B」受講者(計40人)

カセットテープ: 27人(68%)

MD: 34人(85%)

CD: 40人(100%)

MP3 プレーヤー: 4人(10%) /

その他: 1人(3%)(HDD プレーヤー)

- g. 音声と映像が出て、スピードがかえられるのがあればいい。<総>
- h. コンピュータが変わり使いやすくなった。CAL ファイルはワンフレーズを繰り返し聞けるので使いやすいと思う。<CA>

5. まとめ：学生にとって理想的なリスニング演習とは

当初危惧された、カセットテープの利点が失われることに関しては、ソフトレコーダでも再生速度の調節ができ、リサーチ機能も充実していることから問題ないことがわかった。ただし、ソフトレコーダのファイル(CAL ファイル)を自主学習用に持ち帰ることはできないため、MP3 ファイルも用意する必要がある。

学生によるアンケートの結果を踏まえると、(13)のようなリスニング演習を準備することが望ましいことが明らかになった。

(13) 理想的なリスニング演習のために

- 1) 画像付きのVOD ファイルと同じ課題をソフトレコーダでも聞けるように準備する。
- 2) 自主学習用に同じ課題をMP3 ファイルとして保存したものを用意する。

具体的には、VOD ファイルにより 画像を見ながらリスニング演習を行い、聞き取りにくい部分だけソフトレコーダで速度調節を行いながら聞く、とい

う方法が考えられる。そして、必要に応じて、自主学習用にMP3 ファイルを持ち帰ることにする。ソフトレコーダ独自の発音練習やディクテーション演習の提出機能も随時利用したい。

技術的な問題としては、VOD ファイルとソフトレコーダの音量の差をなくすように注意したい。また、VOD ファイルで聞き取りにくかった部分が、ソフトレコーダのファイル(CAL ファイル)ではどの部分にあたるか、という見当をつけるサーチ機能が向上するとよい。

教師の作業としては、映像がある場合はVOD ファイルとソフトレコーダの両方を用意することになる。また、ソフトレコーダの機能の中に、ファイルをMP3 ファイルに転換する、というものがあるため、同じ課題をMP3 ファイルとしても用意することは容易である。

ソフトレコーダの導入により、従来よりも多様なリスニング演習を行う環境が整ったことになり、より一層の学習効果を期待している。

引用文献

林 弘美 (2004) 「コンピュータによる音声情報の利用について」 “第6回マルチメディアを基礎にした教育発表会”(於 明治薬科大学) における口頭発表. 2004年3月12日.